

## 「国際観光都市 TOKYO の課題と ナイトタイムエコノミー」

A. T. カーニー 日本法人会長  
梅澤 高明 氏



梅澤 高明 氏

11月29日(木)12時から、東海大学校友会館にて第475回月例会を開催した。当日は、A. T. カーニー 日本法人会長 梅澤 高明 氏より「国際観光都市 TOKYO の課題とナイトタイムエコノミー」と題する講演が行われた。出席者は68社85名であった。講演要旨は次のとおり。

「本日は、前半で観光都市という観点で東京の課題設定をし、後半でナイトタイムエコノミー、ナイトタイムカルチャーについて話をしたい。

世界の都市ランキングはいろいろなところが公表しているが、森記念財団発表のものは東京が3位、A. T. カーニーは4位、イギリスのライフスタイルマガジンであるモノクルは2位となっている。森記念財団の評価の詳細を見ると、経済、研究・開発、文化交流は高評価であるが、居住、交通・アクセス、環境は評価が下がっている。一方で、私たちが重視してきたのはモノクルのような世界観で、東京は世界で最も住みやすい都市という評価をしている。

まとめると、①総合評価で見ると、東京はアジア No.1 の都市である、②産業・文化・居住については一定の評価を得ている一方、海外からのアクセスについては総じて評価が低い、と言える。東京は産業・文化・観光都市としてのポテンシャルは高いが、国際化やそれぞれの街が持つコミュニティを維持していくことが課題と言えるのではないかと。

ここまでの話を踏まえ、観光都市戦略という視点で深掘りすると、強み・ポテンシャルとして、①地理的ポテンシャル、②清潔・安全・親切、③豊かな文化コンテンツ、④街の多様性を挙げることが出来る。他方、訪日・訪都外国人が感じる「東京の魅力」(東京都調べ)を見てみると、強みとしては基本的な要件(衛生的、親切、治安)および食事に関する評価が高い一方、宿泊施設(量・質・価格)、ファッション・芸術等の文化コンテンツや街の多様性の遡及が足りないと感じる。

これらを前提に、TOKYO の観光都市戦略の重点

課題がいくつかある中で、以後はナイトタイムエコノミーという観点で話をしたいが、もう1つ面白いランキングを紹介すると、LIFULL HOME'S 総研が発表している「センシユアス・シティ」では、ひとがどれだけアクティブに活動しているかや食文化の豊かさを評価している。また、さきほど紹介したモノクルは、全都市共通の KPI としていくつか挙げていますが、クラブが夜何時まで営業しているかという点も文化都市としての評価項目としている。

ナイトタイムカルチャーという面で考えると、夜は「新しい文化の温床」であり、深夜でしか活動できない小さな箱から始まったサブカルチャーと称されるものが、大箱を埋められるアーティストにまで成長することがある。「エコノミー」と言い切ると、大きな箱を作って採算を意識することに頭が行きがちになるが、「カルチャー」という視点で、アーティストやクリエイターにいかにも場所を提供するかという発想も非常に大事である。

もう一度ツーリズムという視点に戻ると、DBJ が調査した訪日外国人の「日本旅行で最も不満だった点」を見ると、一般的な項目とコンテンツに関する項目に大別され、後者については夜間に関連する項目が大勢を占めている。東京都の調査でもナイトライフについての評価が総じて低く、外国人にも開かれたナイトライフを提供する必要性が高い。

ナイトタイムエコノミーの取り組みについて、自由民主党の「ナイトタイムエコノミー推進議連」の中間提言では、①コンテンツの拡充、②小さな箱も含めた場の提供、③交通アクセスの拡充、④安心・安全の確保、⑤インバウンド向けのプロモーション、

が課題として挙げられた。これらについて、観光庁を中心に取り組み方の検討を行っている。少し深掘りすると、①については、常設・定期と不定期に分けられるが、前者のほうが重要で、更に言うと最終的には異なる特定分野の集積がある街を作っていくことが大事である。②については、音楽（配信前提を含む）のベニュー整備やホテル併設のクラブ設置、レストランのミニシアター活用等が挙げられる（以後海外の事例説明あり）。このような事例にあるものを東京からどれだけ発信出来るかが勝負だと考える。③については、主要地下鉄路線・山手線の週末深夜営業、ターミナル駅からの深夜バス運行、タクシーの相乗り合法化等による深夜の足の多様化を築いていきたい。その他、海外向けのプロモーションとチケットの充実も必要であろう。

最後にアムステルダムの前ナイトメイヤーのMirik Milan氏のコメントを紹介する。①ベルリンを訪れる観光客の1/3は夜間観光を期待している、②「才能は才能のあとを追いかける」。ナイトタイムは創造的な才能が会う場であり、これらを整備することでクリエイティブシティとして発展する、③クリエイティブスペース、特に新たな文化の温床となる小箱の充実は大事である、④東京でナイトメイヤー制度を作る場合、その役割は事業者、行政、市民を根気よく繋いでいくことである。駆け足になったが、ナイトタイムエコノミーと観光都市戦略について話をさせてもらった。」（文責：事務局）